

“空の安全、整備の腕競う

中日本航空専門学校でコンテスト

関市迫間の中日本航空専門学校で5日、第8回航空整備科技能コンテストが行われ、学生や航空会社の現役整備士ら531人が整備の腕を競った。

(田島豪人)

仏の技術学校生も参加



エンジンの整備技能を競う種目に挑戦する学生ら＝関市迫間、中日本航空専門学校



尾関健治市長と交流について語り合うマーク・ジュエンヌ氏(右奥)＝関市役所

同科では航空整備士になるための教育が行われており、技能や意識向上のため毎年コンテストを行っている。

学生のほか、全日空や日本航空に就職した同校卒業生、姉妹校となっているフランスの航空機メーカー・エアバス傘下の技術学校「リセ・エアバス校」の学生らも参加した。種目はエンジンの緩みの解消や、多種類の

ボルトやナットで固定されている2枚の板を外し、再び固定させる作業など6種類で、正確さや速さを競った。エンジンの緩み解消は針金を縄のようにねじって結び付ける作業。一方、コンテストに先立ち来市していたエ。参加した2年生女子学生は「本物のエンジンには凹凸が多く作業が難しかったが、自分の課題が分かった」と話していた。

アバス社役員のマーク・ジュエンヌ氏とリセ・エアバス校の校長が4日、関市役所を訪れ、尾関健治市長と会談。相互に交流を行うっていくことを確認した。